

大杉榮

おすぎ 栄

評論家。

明治十八年一月十七日香川縣生れ、大正十一年

年九月十六日歿（八十一歳）。筆名一労働者、榮等。明治二十八年

東京外國語學校佛語科卒。在學中平民社に入り、四十一年赤旗事件

で下獄。大正元年荒畑寒村と雑誌『近代思想』創刊。五年戀愛問題が

纏れて神辺市子に刺される。七年『文明批評』、翌年『労働運動』創

刊。のち海外に密航。歸國直後の關東大震災混乱時、伊藤野枝等と共に

小軍部によつて殺害せられた。

譯著書、ダキン（ダヤキン）著『種の起源』全五冊（譯、一、大正二

年十月十六日、二、十一月二十日、三、四年二月十二日、四、四月二

日、五、七月十日新潮社「新潮文庫」、再刊一全一冊、五年二月二十

日、全一冊、十二年七月五日、全二冊、昭和九年二月二十日「新潮文

庫」）、コ生の闘争』（大正二年十月二十日新潮社）、ルツソオ（ルソ

オ）著『全譯懺悔録』全一冊（生田長江共譯、上、大正四年六月十四日、

下、七月八日新潮社「縮刷全譯叢書」、再刊『懺悔録』昭和四年十月

二十日「世界文學全集」、全一冊—上巻、八年五月十五日、下巻、六

月十五日「新潮文庫」、『社會的個人主義』（大正四年十一月二十

五日新潮社）、『労働運動の哲學』（大正五年二月十五日東京堂書店

『生活と藝術叢書』（ロマン・ロオラン著『民衆藝術論』（譯、大

正六年六月二十四日阿蘇院書房、再刊、十年四月十八日ヤルズ、十五

年二月十五日ヤルズ）、ピイタヤ・クロポトキン著『革命家の思出—

クロポトキン自叙傳』（譯、大正九年五月十八日春

陽堂）、『乞食の名譽』（伊藤野枝合著、大正九年

五月二十八日聚英閣「社會文學叢書」、ピイタヤ



・ウロポトキン著『相与扶助論(進化の一要素)』(譯、大正十年十月、二十四日春陽堂、再刊。昭和六年十月五日「春陽堂主文庫」)、ハヤト・ムウア著『人間の正體』(譯、大正十年十一月十五日「二徳社」民衆科學叢書)、ウロポトキン著『青年の誘ふ』(譯、大正十一年四月十四日労働新聞社、再刊。昭和二十一年二月二十日彰考書院「解放文庫」)、アンライ・フアブル著『科學の不思議』(伊藤野枝共譯、大正十二年八月一日アルス・アルス科學知識叢書)、『日本脱出記』(大正十二年十月二十五日アルス)、『自由の先驅』(大正十二年二月九日アルス)、『未大杉栄遺稿』(安谷寛一編、昭和二年一月十日金星堂)、ウロポトキン全集・第七卷』(譯、昭和二年七月十九日春陽堂)、『自叙伝・日本脱出記』(飛鳥井雅道校訂、昭和四十六年一月十六日岩波書店「岩波文庫」)等。

文献、秋山天水著『劍蹟』(二版、大正十二年十一月八日、五版。十一月表現社)、大沢止清著『大杉栄研究』(昭和四十二年七月十日同成社)、松下竜一著『ルイター父の貫いし各事』(昭和五十七年二月十日講談社)、竹中労著『斷影大杉栄』(平成十一年二月八日筑摩書房「ちくま文庫」)、『初期社會主義研究・第15号「特集大杉栄」』(平成十四年十一月)二十八日初期社會主義研究会、不出版株式會社(発売)等。